

ケンブリッジとラッセル、デュー・デリジェンス評価のランキングで上位¹

マライア・サマーズ
2011年5月4日

FUNDFire が（運用会社調査を行っている）資産運用コンサルティング会社の評価対象となっているマネージャー（運用担当者）に対して実施した調査によると、ラッセル・インベストメントとケンブリッジ・アソシエーツが最も包括的で綿密なデュー・デリジェンスを行っているという評価を得ていることが分かりました。その一方で、NEPC は運用会社（マネージャー）からの新商品の紹介に非常に前向きである点で評価を得ています。また、カラン・アソシエーツとウィルシャー・アソシエーツも同様の点で評価を得ています。

5を最高とする5段階評価で、10社のデュー・デリジェンスの厳しさを評価する質問では、ラッセルが平均で4.4を獲得し、10社の中で最も高い評価を得ました。ケンブリッジのデュー・デリジェンスはラッセルの次に高い4.0（平均）でした。

さらに、調査回答者に新商品の紹介に対してどのコンサルティング会社が最も門戸が広いかを自由記述でたずねたところ、NEPC が圧倒的多数の12回答、カランは6回答、ウィルシャーは5回答という結果となりました。

本調査では、運用会社評価の対象となっているマネージャー（運用担当者）に職務内容や取引のあるコンサルティング会社、さらに業界の潮流について質問をし、56のマネージャー（運用担当者）から回答を得たものです。彼らは、販売・サービス活動全体を評価をするデュー・デリジェンスを重要視していると述べています。

「運用会社調査とデュー・デリジェンスがさらに厳しくなれば、RFPに始まり、マネージャー（運用担当者）が面談できるコンサルティング会社の担当者のレベルにいたるまで、あらゆる点に影響を及ぼすことになるでしょう」とセラーリ・アソシエーツのプリンシパル、ロバート・テストは述べています。

また、テストはデュー・デリジェンスの取り組み方はコンサルティング会社により千差万別だとも述べています。「定性評価に重点を置くコンサルティング会社があれば、定量評価を重視するところもあります。芸術と科学のバランスは、非常に絶妙です。」

ケンブリッジは、数字に頼るよりも定性面を重視するデュー・デリジェンスを行っているといいます。それがケンブリッジが最も評価が厳しいコンサルティング会社のひとつという評価を得た理由ではないかと同社の幹部は話しています。

「ケンブリッジへの高評価は、恐らく我々が非常にファンダメンタルで定性的なデュー・デリジェンスを行っていることに起因していると思います」とケンブリッジのヘッジファンド・リサーチ&コンサルティングのマネージング・ディレクター、デービッド・シュキスは述べています。「私たちは、運用会社をパフォーマンスだけで評価しません。また、過去のパフォーマンスを定量的なものさしで量ることにそれほど重きを置きません。私たちは、マネージャー（運用担当者）の人となりと彼らの持つ運用戦略を知ること注力しています。もっと定量面を評価プロセスに入れ

¹ 本稿は、FUNDFire（米国のオンライン・ニュース・サイト）に2011年5月4日に掲載された記事をラッセル・インベストメントが翻訳したものです。FUNDFire : www.fundfire.com

ていたら、きっと今ほど評価が厳しいという印象はなかったでしょう。しかし、それは評価プロセスにおいて重要な点ではありません。」

さらにケンブリッジでは、運用会社のオペレーションや法令遵守の手順においても追加的なデュー・デリジェンスを行っていると言っています。

ラッセルも FUNDFire の調査で高評価を得ているとともに、同様にデュー・デリジェンスに重層的なアプローチを用いています。ラッセルのグローバル・マネージャー・オーバーサイトおよびデュー・デリジェンスの担当ディレクター、**ダイアナ・ゼントナー**は、次のように述べています。

「ラッセルの調査プロセスには、2つの構成要素があります。一つ目の要素である運用会社調査は、私たちが非常に重視するものです。二つ目の要素は運用会社の法令遵守とオペレーションの評価です。ラッセルには、運用会社調査の専門家と法令遵守調査の専門家がいます。この二本柱が評価体制をより一層包括的にするのです。」

ゼントナーは、法令遵守のデュー・デリジェンスは運用会社調査を補完するもので、様々な要素を注視しているとも述べています。

「特に注視している分野は、世界における現在の規制を取り巻く環境です」とゼントナーは、述べています。「どのような変化が起こっているのか。また、運用会社はこのような変化に対応していくことができるのかといったことから、オペレーション面ではインフラや取引執行時のエラーを最小限にとどめるための制御機能など、取引のプロセス、さらにはミドルオフィス、バックオフィスにいたるまで全てを精査します。このサービスは、ラッセルのグローバル拠点に配属された専門家が一つのチームとなって稼動することで可能になっており、他社のサービスと異なる点だと思えます。」

ラッセルのデュー・デリジェンスで運用会社調査の分野を担当しているグローバル・エクイティ・リサーチ・ヘッドの**マーク・サーストン**は、長きに亘って培ってきたラッセルの運用会社調査が綿密なデュー・デリジェンスをする上で役立っていると述べています。

サーストンは次のように述べています。「ラッセルが他社と異なる点はいくつかあります。ラッセルは1970年代に資産規模の大きな年金基金向けに運用会社調査を始めました。それから何年にも亘って、保有銘柄やパフォーマンスに関するデータを蓄積してきましたが、それが運用会社を評価するシステムを作り上げるのに役立ちました。これはラッセルの優位性の一つです。その他の優位性としては、ラッセルでは資産クラスや地域、さらには運用スタイルを評価する専門のアナリストチームを置いていることです。」

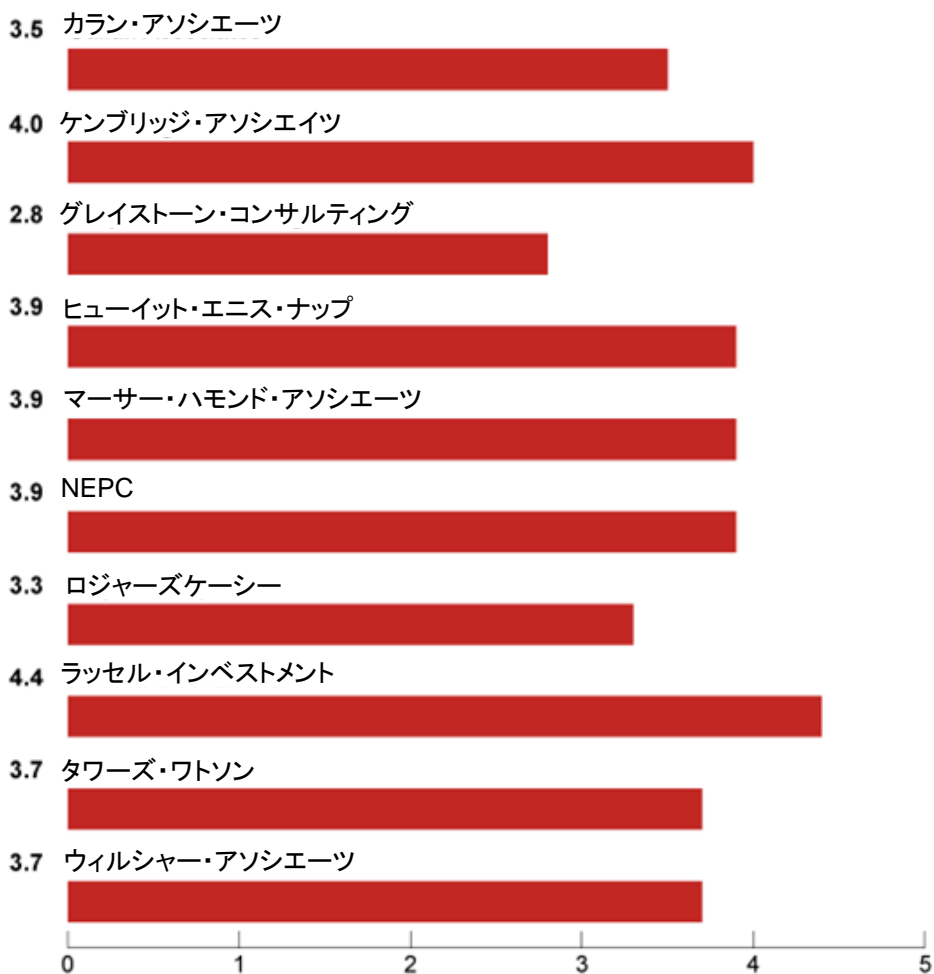
セルーリのテストは、コンサルティング会社が新商品に対して真摯に門戸を開き、新しいアイデアを受け入れようとしているという評価を受けるためには、単に新しい運用商品をデータベースに加える以上のことをしなければならないと述べています。

「データベースに新しい運用商品を登録してモニタリングを開始するのと、実際にその運用商品を採用するのは、全く別のことです」とテストは述べています。「新たなコンサルティング会社と運用会社を実際に引き合わせているのは投資家ですが、彼らは非常に慎重です。彼らは新しい運用商品を探しているものの、（商品が採用されるまでの道のりは）運用会社にとって、常にいばらの道なのです。」

新しい運用商品の受け入れに対して最もオープンなコンサルティング会社のひとつという評価を得たカランのグローバル・マネージャー・リサーチのバイスプレジデント、**ローレン・エッチュベリ**は、新商品の評価と採用においてカスタマイズが重要な役割を果していると言っています。

「この評価は、カランの調査プロセスが非常にカスタマイズされていることに起因していると思います」とエッチュベリーは述べています。「カランでは、運用会社のデータベースの門戸を広くするというポリシーを設けています。これがマネージャー（運用担当者）との会話と関係が始まるきっかけとなり得るからです。データベースに情報を入れることで、新しい運用商品と運用会社が新たな選択肢となるのです。顧客にカスタマイズしたソリューションを提供するには、新しい運用商品を選ぶ上で、豊富なリストを用意しておく必要があるのです。」

デュー・デリジェンス、もしくは運用会社調査において、以下のコンサルティング会社の評価の厳しさを5段階評価で付けてください（最も厳しいを5とします）。



Copyright 2011, Money-Media Inc. All rights reserved. 転載には許諾が必要です。無断コピーや転載は、法律で禁じられています。

当資料中「ラッセル・インベストメント」及び「ラッセル」は、フランク・ラッセル・カンパニー及びその子会社等の総称です。ラッセルによる事前の書面による許可がない限り、資料の全部または一部の複製、転用、配布はいかなる形式においてもご遠慮ください。

当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その情報の正確性や完全性についてこれを保証するものではありません。当資料は、特定の運用商品やサービスの提供、勧誘、推奨を目的としたものではありません。

ラッセル・インベストメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第196号
 加入協会：社団法人投資信託協会、社団法人日本証券投資顧問業協会